

ヴェルディ・オペラ第16作目「ステッフェーリオ」解説

原作はエミール・スーザンヌストル(Emile Souvestre)及びユージン・ブルジョワ(Eugene Bourgeois)著の戯曲「牧師」で、その戯曲をイタリア語にガエターノ・ヴェストリ(Gaetano Vestri)が訳して「スティフェリウス」とした。

ヴェルディはこのイタリア語の戯曲を読み、これに飛びつき、ピアーヴェに台本を作らせスティフェリウスというラテン名をステッフェーリオに変え、作曲をした。

この名前は「アッサスヴァリウス教団」の長を指す呼称で個人名ではない。この教団は19世紀初頭に生まれたプロテstantの熱狂的な一派であり、オーストリア帝国領内では一時布教が禁止され、教団の長に逮捕状が出ていた。彼はまたルターの再来と言われ、その情熱的な説教は人びとを法悦の境に導くとまで言われた人物である。このような宗教団体が生まれた背景には自由平等、博愛をかけて市民が、貴族、聖職者等特權階級に対し、いわゆるフランス革命を起こし勝利したこと、旧来の厳しいキリスト教カトリック教会の道徳的生活基準がヨーロッパ各地で壊れてゆく。・・・(NPO法人京都ヴェルディ協会の発起人であり、わが師永竹由幸(1938/07/26~2012/05/09)著「ヴェルディのオペラ」の「ステッフェーリオ」ページから)

原作「牧師」のイタリア語訳「スティフェリウス」とヴェルディ・オペラ「ステッフェーリオ」

さて原作「牧師」のイタリア語訳「スティフェリウス」は5幕の物語で形成されている。ヴェルディの「ステッフェーリオ」は3幕ものである。つまり原作の1幕、2幕がオペラではカットされ、原作の3幕からヴェルディのオペラは1幕として始まっているので、なぜ、リーナとロドルフォ(スティフェーリオ)が結婚したのか?なぜリーナがラファエーレと不倫をしたのか?どの様な経緯があったのか?その説明がオペラでは足りていない。不倫の結果、妻リーナに対する不倫の罪と罰を、また夫として、聖職者として妻の姦通罪をどのように裁くのか?妻は夫ロドルフォを今も愛している、だから懺悔するという。人間ロドルフォ対聖職者ステッフェーリオ。ロドルフォの心理状態を主体に物語は進行する。人間の本質的な心、怒りが芽生え、心乱れる。しかし最後にはステッフェーリオは聖職者として靈感が蘇り、リーナは許される。ラファエーレはリーナの父親スタンカー伯爵と決闘の末死んだ。メロドラマ調に仕上げているが、ヴェリスモ・オペラそのもので生々しい迫力がある。

1850年11月16日トリエステ・グランデ劇場で初演された「ステッフェーリオ」は、幸いオーストリア・ハプスブルク家の検閲のクレームが少なく済み、ほぼオリジナル通りの物語であったが、それ以後、イタリア各地での公演では非常に厳しく、ヴェルディは難儀したが、「ステッフェーリオ」の音楽が捨てきれず、主人公の職業その他多くを変更、オペラの題名も「アロルド」に変更一新し、やっと検閲をパスさせ、1857年8月16日リミニ・テアトロ・ヌオーヴォで初演した。

前史(原作の1幕、2幕)についてヴェルディ・オペラではカットされている部分

1、プロテstant・アッサスヴァリウス教団の長がスティフェリウス(ラテン語)で本名は